

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102810		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	岡山県岡山市南区大福1200-2		
自己評価作成日	平成28年6月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとした雰囲気の中で穏やかに入居者の方が過ごすことが出来ている。優しい職員が多く、入居者様も笑顔が絶えない毎日を送ることが出来ている。若い職員が多く、アクティブに動くことが出来ている。スタッフ間のコミュニケーションもとれている。広々とした空間で、キッチンからもホール全体を見渡すことが出来、入居者様の状態の変化にも(転倒や急変など)常に配慮している。ご家族様とゆっくりと過ごす時間を大切にしており、面会時の空間作りはもちろんのこと、外出にも力を入れており、ご要望の場所へご家族様も含め、出来る限り出かけるようにしている。勉強会を毎月行っており、知識や技術の向上に努めている。地域との交流も出来る限り行なうよう努めている。セラピー犬もおり、入居者様 御家族様 職員の癒しとなっている。入居者様がそれぞれのペースで過ごすことが出来るよう、援助を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療面とその人らしい生活の継続・コミュニケーションを大切にした支援でアットホームな雰囲気の中、サービスの質の向上に努めています。医療面では看護師が2名在籍しており職員研修や日々の健康管理に当たっています。入居者の生活の継続支援に努め、一人ひとりの思いを大切に暮らしと職員・家族・入居者のコミュニケーションによるその人らしい自立した生活への取り組みが窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスで話し合いを行い、意見を出し合っている。 勉強会や研修等で学んでいる。	入居者のこれまでの生活を大切にし、自らの力で、自分らしい姿を描く事が出来る様支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加呼びかけにより、徐々に参加していただけるようになってきている ・近所の方へのあいさつ ・町内会総会への参加 出来る限り、町内の行事にも参加している。	入居者と共に地域の行事に参加し、よく参加する入居者は地域の方と顔なじみになっており、気軽に声を掛けてくれ、話をしてくれたり交流が来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事にも徐々に参加するようになってきている。 入居様様が離設の際、近所の方が協力してくださった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族にもわかりやすいテーマを選んでいる。 要望・意見などがあれば検討している。	今までは土日の開催でしたが年に1回平日開催し、行政担当者に現在のケアシステムの説明をもらった。また近隣の介護施設の職員も参加して、意見交換や協力し合えることを話し合いサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの問い合わせや提出書類については迅速に対応している。	書類の記述で分からない事があった時は、窓口に出向き担当者に直接会って伺っています。何度でも赴いて、顔なじみの関係を作るように努力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に入居者の居場所の確認を行い、鍵をかけなくても良いケアを行っている。 カンファレンスで身体拘束について話し合い知識を深めている。	身体拘束は絶対に行わないという強い意志が責任者から窺えました。責任者を始め職員は、身体拘束が入居者に与えるリスクと、どうすれば身体拘束をせずに安全を確保できるかを日々話し合っています。	身体拘束における正しい理解と生命の危険にも繋がる事項と捉え、臨床倫理も学んで取り入れることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時に入居者の身体状況を確認するなど職員同士がお互いに注意し合えるケアを行っている。 カンファレンスで虐待についての話し合いを行い知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学んでいる。 必要な入居者には活用できるよう援助している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には責任者が同席し、わかりやすく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気づいたことは何でも話していただけのように配慮している。 運営推進会議議事録を玄関に置いており、来訪者がいつでも閲覧できるようにしている。	入居者の様子を家族に伝え、意見や希望を法人指定の提言書に記入し法人管理職に届き改善、評価し家族に報告するシステムで運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に気づいたことはカンファレンスで話題にし、解決している。	新しい職員への採用時には、現職員の意見を聞くなど様々な機会を通して意見の反映に努めています。又、職員が資格を取得しやすいように、補助金制度を設けるなど向上心への支援も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員との面談(年1回)や日頃から職員の声に耳を傾けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修やカンファレンスでの職員同士での勉強会、新人研修やキャリアパス研修などの研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターと連絡をとったり、お互いの施設の見学を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中で話されている要望等に耳を傾けながらケアプラン作成時に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の方に積極的に話しかけ、要望等を集めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のアセスメントや日々の生活の中で意見交換を行い、安心して生活できる環境を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむ 洗い物 草取り 花の手入れ、また身の回りの整理整頓など出来ることは自分でしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回ご家族への手紙を送付し、近況報告をしている。メールや電話で適宜連絡をとっている。面会時にも、その都度近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へ行きたいという希望には、可能な限り応えている。 (なじみの美容院、店など) ご家族様にも協力していただき、なじみの場所へ出かけることが出来ている。	一人ひとりの今までの暮らしの把握に務めながら、本人の希望に沿える様に関わっています(重度の入居者と家族の希望で職員同行で帰宅し、なじみの店に行き、本人・家族、知り合い皆が喜びました)。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で談笑できるように時折職員も間に入り、落ち着いて話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へお見舞いに行き、ご家族や本人から話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のため要望を聴取しにくい場合でも、日々の生活の様子や言葉をよく観察し把握できるように努めている。	入居者それぞれの毎日の小さな動きや、している事、言葉を大切に捉え、本人の視点に立って思いや希望、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお聞きしている。 日常の会話の中で新たに教えていただくことも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの行動を把握している。変化があれば職員間で申し送り、対応している。 個別にリハビリや散歩に出かけるなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、出来るだけ話し合いの機会を持ち、要望・意見を集め、カンファレンスで検討してケアプランを作成している。	入居者の日々の様子、又本人からの聴き取りを基に家族にも参加して貰い、本人の輝いていた頃を基本にして、介護計画を立てています。また計画が本当に本人にとって良かったのか評価し変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各担当者またはカンファレンスで見直しを行い、反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力はしているが、多機能とまではいかないご家族様の外出などの協力。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様にもケアに参加していただけるような環境づくりを行っている。 訪問理容 地域の活動(クリーン作戦 ふれあいサロン)などへの参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での対応が必要な際には、協力病院への紹介や入院をお願いしている。	月2回の内科往診と眼科の往診があり、他の科を受診の際は法人指定の情報提供書に記入し、医療連携を行っています。家族が同行する際も職員が必ず付き添い、適切な医療を受けられる様支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば看護師に相談し、早急に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き、家族や病院関係者から入居者の状態をお聞きするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より家族に対しての説明の場を設けるようにしている。 家族には施設で出来る範囲を説明し、今後の対応を協議している。	入居者の状態変化に伴いその都度医師から本人、家族、職員に分かり易く説明して貰っています。終末期の痛みを伴う場合は、医療機関で適切な処置を受けられる様支援し、重度化により処置が必要となった場合は本人の希望を採り入れた支援を優先し、家族・医療関係者と協働して看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、カンファレンスや研修で繰り返し確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、消防署の指導を受けている。マニュアルの確認や職員同士の話し合いも行っている。 地域の班ごとに防災組織を立ち上げている。 地域の防災訓練を見学に出かけた。	最近の自然災害に合わせて災害避難マニュアルの見直しを行い、今後は地域の方にも災害避難訓練に参加して貰い、地域の方の協力を考えています(備蓄は3日間分の食料、水並びに防寒具を用意しています)。	事業所近辺は道が狭く移動しにくいので、車での移動が出来なくなることも考えられます。地域の自主防災関係者と連携を取って地域との連携を進めて行くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や口調で話しかけるよう心がけている。接遇の研修機会を持ち、向上を図っている。 排泄、入浴介助の際にもプライバシーに配慮した声かけを行っている。	職員は慣れ親しんだ言葉と馴れ馴れしい言葉の違いの線引きが出来ており、入居者と慣れ親しんだ言葉を使って関わり、和やかな雰囲気が見えました。また職員同士がお互い気が付いた事はその場で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で否定はしないように心がけている。 表情や仕草などからも入居者を理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個人ごとの要望に沿った援助が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には、希望者には化粧をしている。 出来る限り外出時の服装は、自分で選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けや味見、洗い物など出来る範囲のことを手伝っていただいている。オープンキッチンのため、調理を楽しそうに眺めている方もおられる。 食事イベントや外出の際には、食べたいものをお聴きしている。食事イベントの買い物へ一緒に出かけることもある。	食欲が無い入居者には食べたい物、食事に制限のある方や食べづらい方への形態の工夫など、美味しく食べられる様支援しています(料理が得意な入居者と一緒にバラ寿司を作りました)。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日チェックしている。 月1回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には必ず口腔ケアを行っている。 誤嚥の危険性の高い方、経管栄養の方には毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自分でしていただいている。失敗のないよう排泄パターンを把握し、その方にあった時間に誘導できるようにしている。尿量測定を行い、その方にあったオシメやパットを使用している。	何が原因で排泄が妨げられているのかをアセスメントするための法人指定のチャートを基本にして、入居者一人ひとりにあった排泄支援をしています。夏と冬でも尿量が変わるのでその都度見直し、自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取っていただくために、好みの飲み物を用意している。便秘の際には、食物繊維(オクノス)や乳酸菌飲料を飲んでいただくなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの頻度、回数、時間に入浴できるようにしている。	一人ひとり湯を交換し、本人の今までの入浴方法に合わせて温度や手順を変えています。また入浴拒否の方は、アセスメントを行い個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度を計測し、管理している。リラックス出来る環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には申し送りを行い、注意している。誤薬防止の為、内服援助の際には、職員間で2度確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や気分転換のドライブ、買物などを行っている。草取り 花の手入れをしていただいている。職員と一緒に歌を歌ったり、体操を行なうなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときには近所を散歩している地域でのふれあいの集いやふれあいサロンへ出来る限り出かけるよう努めている。出来る限り本人の要望に応えるよう取り組んでいる。以前と比べ、ご家族様との外出は増えてきている。	職員と一緒に入居者、家族で外出し(家族だけでは外出が難しいので)とても喜んでもらっています。職員の提案で重度化した入居者に音楽鑑賞をしてもらったり、窓から見える庭の花や木など外の景色から季節を感じてもらうなど気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替払いではあるが、希望される場合は自分でお小遣いを管理されている。 買物の支払いは、自分でしていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在希望される方はおられないが、電話は自由にかけさせていただくことは出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を生けたり、中庭の花を眺めるように配慮している。 季節の花を植えたり、七夕 五月人形を飾るなど工夫している。	共有空間の居間は、みんなが心地よく過ごせる様、分かり易い掲示や展示をし和やかな雰囲気づくりに努め、憩いの場として生活感や季節感を採り入れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳など入居者がお気に入りの場所で過ごすことができるようにしている。 中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、園芸を楽しんだりもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、本人が使っていたものを持ち込んでいただき、使い慣れたものやなじみのものが身近にあるように家族にも協力をお願いしている。 仏壇を持ってきている方もおられる。	特に事業所の決まりはなく本人が今まで慣れ親しんだものを持ち込んでもらい、これまでの生活の流れが継続できるように配慮しています。家具等の配置も職員の視点ではなく入居者本人の思いで決めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間真っ暗でないと眠れない方に対しては、足元灯をお付けしている。		